

生き物調査による小松の SATOYAMA 魅力アップ

学生団体名 石川県立大学 ビオトープ研究会

参加学生 林 勇喜 加藤 利輝 川上 隼人 他 41 名

1. 地域活動の概要

小松市滝ヶ原地区を中心に、4月～12月の間に月2,3回程度の割合で生き物調査を実施しております。滝ヶ原には優れた景観があるので、それらを学生視点で発見、記録することで里山として滝ヶ原の魅力を発見していきます。

そして地域住民や周辺地域にインターネットを通じて発信することを考えています。そのほかにも地元小学生を対象にした観察会を実施するなど直接研究成果を還元する活動も行っています。

2. 地域活動の具体的な内容

時期	活動内容	参加人数	地域における役割
毎月 2～3 回	滝ヶ原地区における生物調査	学生 10 人弱	里山としての特徴発見。
11 月 24 日	「里まなび山あそび」参加。	学生 20 名	滝ヶ原の魅力紹介。簡易授業。



参加企画



発表風景



景観



生物調査

3. 地域活動の評価

今年の調査では見発見の生物がいくつか確認された。その中でもレッドデータブックで「絶滅危惧 I B 類」に指定されているホトケドジョウを発見することができた。この生物の特徴として生息環境が独特というものがあり、そのような環境が存在する点を滝ヶ原の長所としてさらにアピールしていこうと考える。

今後、この地域活動を継続、活発にしていくために必要なもの、及び課題

調査結果を外部に発信するがまだ広報が上手くいかず調査発表をみに来てくれる人を多く集めることができなかった。また、活動範囲も狭いので、できる限り活動範囲を広げていきたい。現在調査地区の地図を作成中だが今後はそこを重点的にする必要がある。最終的には一般の方々が一目で特徴とそのポイントを理解できるレベルまでにする予定である。

4. 学生の感想

他の地区での活動には中々ない「自然と触れ合う」ことのできるような場所があるので大変貴重な機会だと思う。自然に囲まれている場所がないのはもとより、まず生物の種類が圧倒的に多いので研究のやりがいがある。

5. 地域からの評価

生物のクイズなどを通して自分も勉強することができたので良かった。今では動物や昆虫に触れる機会も少ないのでこういう活動は良いものだと思う。